

令和7年4月9日

福島大学学士課程改革構想について

本学は昨年10月にお示した「福島大学グランドデザイン2040」をもとに、学士課程を現行の3学群・5学類から4学部・3学科1課程に再編し、令和9年度から学生を受け入れることを目指して検討を進めております。

今回はその具体的な構想内容についてご説明します。

<学士課程改革の概要（令和9年4月学生受け入れ）>

- 現行の人文社会学群人間発達文化学類（入学定員260名）を「**教育学部学校教育教員養成課程（仮称）**」（入学定員235名）に改組。
- 現行の人文社会学群行政政策学類（入学定員205名^{※1}）及び人文社会学群経済経営学類（入学定員220名）を統合し、「**政経学部政経学科（仮称）**」（入学定員400名）に改組。
- 人文社会学群行政政策学類夜間主（入学定員20名）について、令和8年4月をもって学生受け入れを停止。
- 理工学群共生システム理工学類（入学定員200名^{※2}）を「**理工学部理工学科（仮称）**」に名称変更し、**入学定員を215名に増員**。
- 農学群食農学類（入学定員100名）を「**食農学部食農学科（仮称）**」に名称変更し、**入学定員を135名に増員**。
- 福島大学附属小学校（定員630名）及び附属中学校（定員420名）を統合し、「**福島大学教育学部附属義務教育学校（仮称）**」（定員636名）を設置。

※1 夜間主の入学定員20名を含む。

※2 令和7年度から入学定員を160名から200名に増員。

※ 本資料に記載の学士課程改革の構想は、今後、文部科学省等関係者と調整の上、令和8年度に文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査を受ける予定です。なお、構想は審査結果によって確定するものであり、変更の可能性があります。

※ 在学生及び令和8年度に入学する学生は、卒業までの間、学群・学類に所属し入学時の教育課程・卒業要件が適用されます。これらの学生が卒業するまでの間、現行の学群・学類及び教育課程・卒業要件の維持を保障いたします。

（お問い合わせ先）

学長室 大学改革推進係

電話：024-503-1879

メール：daigakukaikaku@adb.fukushima-u.ac.jp

福島大学 学士課程改革構想

令和7年4月

- ※ 本資料に記載の学士課程改革の構想は、今後、文部科学省等関係者と調整の上、令和8年度に文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査を受ける予定です。なお、構想は審査結果によって確定するものであり、変更の可能性があります。
- ※ 在学生及び令和8年度に入学する学生は、卒業までの間、学群・学類に所属し入学時の教育課程・卒業要件が適用されます。これらの学生が卒業するまでの間、現行の学群・学類及び教育課程・卒業要件の維持を保障いたします。

— 激変の時代に、柔軟に、かつ強靱に大学づくりをすすめるために —

背景・必要性

- ◆ VUCAと呼ばれる現代社会において、気候変動や大規模災害の頻発、急激な人口減少・少子高齢化、そして昨今の物価高など、多様な問題が生じています。福島大学においては、国立大学法人化および先の全学再編から20年、また東日本大震災・原発事故から13年が経過し、これらから多くの知見を得た一方で、財政問題の深刻化や「2040年充足率7割」などの新たな課題も浮上しており、国立大学法人としての機能維持が困難な状況が現実味を帯びてきています。
- ◆ 福島大学は知を結集してこれらの困難に立ち向かい、震災・原発事故からの復興支援を継続し、地域の現代的で複雑な課題を解決するために、不断の改革を進めています。

- ◆ 国立大学法人としての機能強化・発展 ◆ 少子化問題対応
- ◆ 財政の健全化 ◆ 社会における諸問題を解決・緩和できる人材育成

大学改革

- ◎ ミッション、ビジョンを実現するための新たな教育研究組織を構築
- 教育と研究を車の両輪として一体的に行うことが可能となる新しい学士・修士課程及び博士課程に改組
- 学長のリーダーシップの下、的確かつ効率的に意思決定を行うためのガバナンス体制の点検・整備
- 持続可能な大学への転換を目指して財政改革
- 組織や研究分野のスリム化を進め、本学の「強み」を先鋭化
- 県内外の高等教育機関との連携を強化し、機能の共有・協働体制を実質化

2段階改革

【R9改革】人文社会系、附属学校園の再編と理・工・農機能強化

人間発達文化学類 ⇒ 教育学部(仮称)に転換し、人材育成目的の絞り込み
行政政策学類 + 経済経営学類 ⇒ 政経学部(仮称)を新設、人材育成理念を一本化し、社会実装等の課題に対応
附属学校園 ⇒ 附属小学校と附属中学校を附属義務教育学校(仮称)に統合
理工農機能強化 ⇒ 学生数・教員数を移し重点化を明示、研究分野の絞り込み

【R13改革】全学的研究機能の強化 (予定)

- ・ 協働的研究指導体制を実現する大学院の改革
- ・ 外部研究資金獲得に関するポテンシャルの引き上げ
- ・ 産学官連携の強化

バリュー
(行動指針)

ビジョン
(目標)

- ▶ 「正解のない問い」にチャレンジできるイノベーション人材の育成
- ▶ 地域と世界における現代的で複雑な課題解決のための研究強化

ミッション
(使命)

- 「新しい社会のあり方」を提案できる大学
- 個人のWell-being、社会のWell-beingの実現をめざす大学
- 激変の時代に「柔軟に、かつ強靱に」取り組む大学

教育

- 問題解決を基盤とする教育のさらなる推進
- 異分野間の融合が可能となるような教育組織の再編
- 教育の内部質保証の徹底と、学修者本位のカリキュラムの構築

研究

- 既存の研究分野を超えた異分野間の共同研究を推進
- 人文社会系研究分野との融合が期待されている理・工・農学系の研究強化
- 環境放射能研究所、発酵醸造研究所、水素エネルギー総合研究所等の研究を進化・発展

地域社会との連携

- 地方国立大学としてなすべき社会貢献の在り方を再構築、強化
- 研究者が問題解決に関与する実践研究として、大学の地域貢献をデザイン
- 将来のあるべき地域の姿や課題を明らかにし、そこから逆算した課題を提起

教員養成・附属学校園改革

- 震災・原発事故からの復興、少子化時代の学校のあり方を実現する福島の地域課題に根ざした、教員養成福島モデルの構築
- 少子化を踏まえ経営方法の変更も視野に入れた、附属学校園の抜本的な改革を実施

グローバル化

- Fukushima Ambassadors Programを発展させ、本学及び地域の課題に即したグローバル化を全学で展開
- 留学生数の増加、および語学力の向上、海外インターンシップなどの活性化
- 海外との共同研究数の増加

VUCAの時代

気候変動、食糧問題、エネルギー問題、資源問題、パンデミック、国家・地域間紛争、AIの急激な発達、難民・移民
身近に迫る世界問題

教育力の向上

新しい社会づくり

新しい社会のあり方を提案できる大学
担い手の育成、イノベーション人材の輩出

研究力の向上

福島の課題

未完の震災復興、人口流出の加速、少子高齢化、教員不足、自治体や企業の人材不足、経済活動の低迷、DX化の遅れ、……
既存の解決方法の行き詰まり

産学官連携強化

R9年度改革

- 学群・学類・学系制の廃止、学部・学科制へ
- 学士課程再編と教育力の向上
- 行政政策学類夜間主の廃止
- 理・工・農の研究機能強化

※在学生及び令和8年度入学生には入学時の学群・学類及び教育課程、卒業要件が適用されます。

理工学研究科 博士後期課程

岩手大学大学院
連合農学研究科

分野横断・社会実装

大学院再編を実施予定 (R13年度)

R9改組

教育学部(仮称)

- 学校教育教員養成課程
【入学定員：235名】
- 地域課題探究コース
 - グローバル探究コース
 - インクルーシブ教育コース
 - 教育臨床コース
 - STEAM教育コース

R9改組

政経学部(仮称)

- 政経学科
【入学定員：400名】
- 産業・地域社会イノベーションコース
 - 経済経営コース
 - 公共政策デザインコース

R9定員増

理工学部(仮称)

- 理工学科
【入学定員：215名】
- 情報理工学コース
 - メカトロニクスコース
 - 分子デザイン科学コース
 - 環境システムコース

R9定員増

食農学部(仮称)

- 食農学科
【入学定員：135名】
- 生産環境学コース
 - 食品科学コース
 - 農業経営学コース
 - 農業生産学コース

基盤教育：大学の教育に必要なスキルの獲得、問題意識の涵養

研究所・センター群

- 地域未来デザインセンター
- 理工附属水素エネルギー総合研究所
(金谷川小学校跡地利用予定)
- 環境放射能研究所
- IFeS
Institute of Food and Environmental Sciences
食農附属発酵醸造研究所

産学官共創イノベーションハブ構想

学外連携機関

福島国際研究教育機構 (F-REI)
など

研究所・センター群の改組も含めた
抜本的な組織の見直しを今後検討

人間発達文化学類
【入学定員：260名】

行政政策学類
【入学定員：205名】

経済経営学類
【入学定員：220名】

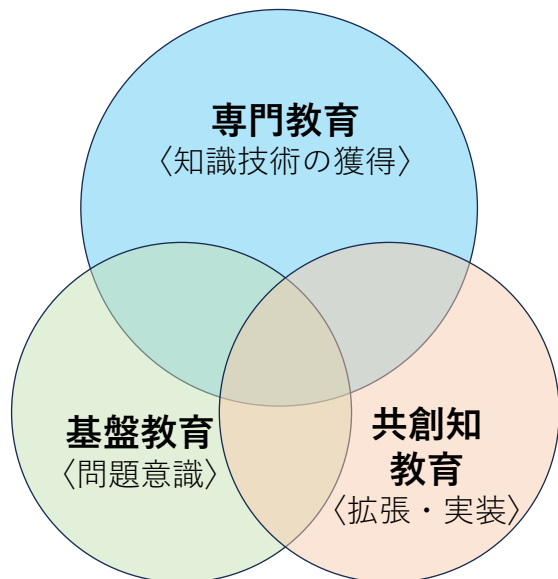
共生システム理工学類
【入学定員：200名】

食農学類
【入学定員：100名】

人文社会学群

理工学群

農学群



教育改革の目的

学部を越えて学生の知的関心を拡張し、**領域横断の教育**を実現し、リソースを最大限に活用して教育の質を高める。

共創知教育

現代社会に生きる市民として必要な**問題意識**や**知識、技術**を複数**セットしたモジュール**（8単位程度）を出身学部を越えて履修する。学生の**専門性を進化、重層化、実装化**するための「**+αの専門性**」であり、**協働プロジェクト化**することによって実社会で試行することもできる。

履修方法

1. **自由選択領域の枠内**（一部基盤教育、学部専門教育も含む）で履修するものとし、「ものづくり」「再エネ・水素エネルギー」「環境放射能」「食糧問題」「まちづくり」「環境・気候変動」「震災復興」「アントレプレナー」等をテーマとしたモジュールを設定し、所定の単位を履修した学生に対しては履修証明としてオープンバッジを発行する。
2. 各学部やセンター、機構間で、テーマごとにモジュールを単数、もしくは複数準備する。**他学部の学生が受講することを前提とし、平易で積み重ねが可能なものとなること**が望ましい。基本は特定の既存科目を他学部へ解放する形で行う。
3. 「2.」のモジュールを履修することにより、さらに**協働プロジェクトに発展**させることができる。協働プロジェクトは複数の教員、もしくは複数の学生がプロジェクトを提案し、全学教務協議会で認証を受けると単位化（1～2単位）が認められる。

領域	単位
基盤教育	28
学部専門教育	84
自由選択領域	12
(共創知)	10
計	124

入学定員 235名

【入学時のクラス】

国語クラス	各クラス 20～45名 程度
英語クラス	
社会科クラス	
算数・数学クラス	
理科クラス	
保健体育クラス	
心理クラス	

- 入学時にクラスを確定
- 一部の入試はクラスと紐づける

【入学後にコースを選択】

地域課題探究コース	各コース 50～60名 程度
グローバル探究コース	
インクルーシブ教育コース	
教育臨床コース	
STEAM教育コース	

- 探究的な学び・コースプログラム科目
- プロジェクト学習
- クラスまたはコースに基づく卒業研究

【卒業に必要な最低修得単位数内で取得可能な免許状】※1

小学校 1種 + 中学校 2種
 小学校 2種 + 中学校 1種
 小学校 2種 + 心理プログラム※2
※1 中学校の教科は国語、英語、社会、数学、理科、保健体育のいずれか1種類
※1 卒業に必要な最低修得単位数を超えた単位の修得により小学校（中学校）1種免許状の取得が可能
※2 心理クラスのみ選択可能

【卒業に必要な最低修得単位数を超えた単位の修得により取得可能な免許状】

特別支援学校 1種（知的障害者、肢体不自由者、病弱者）、
 高等学校 1種（国語、英語、地理歴史・公民、数学、理科、保健体育、情報）

学生募集

- 福島県教員希望枠入試
- 強みのある学生入試

多様な教員の育成

- 学士入学2年プログラム
- パーパーティーチャー講座
- 児童生徒の心理がわかる教員

県教委（県立高校）との連携

- 県立高校教育コースとの連携
- 福島県教員希望枠入試の導入
- 高校生セミナーの実施
- アドバンスプレイズメント

福島ならではの学び

- 地域課題探究拠点校での実習
- 4年間を通じた学校現場での学び
- 福島の教員プログラム

教職大学院の改革

- 学士・教職大学院5年統合プログラム
- 義務教育学校内に教職大学院の教室を設置

教育×未来志向×地域

福島大学教育学部（仮称）

【目指す教員像】

社会・地域に学び、未来を創造する人を育てる教員
 主体的・協働的に学び続け、学校教育を支える教員

教員養成福島モデルの構築

他学部との連携

- 理科、高校情報の科目提供
- 高校農業、高校商業などの課程への協力

宮城教育大学との連携

- 実技科目の教員を宮教大で養成
- それらの学生たちの福島での学びを支援

附属小・中学校を「探究」を柱とした義務教育学校に改革

- 定員数の見直し
- 附属義務教育学校（仮称）設置
- 「探究」を柱とした教育活動

義務教育学校を「研修のセンター」に

- 義務教育学校内に教職大学院の教室を設置
- 学部生に各年次に実習科目を配置
- 学部生にとってロールモデルになる大学院生
- 学部生と教職大学院生が共に学び合う

令和9年度から年次進行で移行

令和8年度までに入学した児童・生徒については制度の変更は一切ありません。

【次期教育振興基本計画について（答申）】

R5.3.8 中央教育審議会

- ▶ 2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成
- ▶ 日本社会に根差したウェルビーイングの向上

福島大学教育学部（仮称）

- ✓ 教科教育における「探究」の在り方の研究
- ✓ 物事を捉える際の、多様な視点の提供
- ✓ Project.F（仮称）への参画

【第7次福島県総合教育計画】

R3.1.2 福島県・福島県教育委員会

- ▶ 「福島ならではの」教育
- ▶ 「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する。
- ▶ 創造性あふれる人材の育成（STEAM教育、福島イノベーション・コースト構想）

未来を拓く

広く、そして深く

教科担任制

【総合】
多様な視点を意識して、物事を広く、そして深く考える「探究」

【各教科】
各教科の特質を考え、それぞれの教科等を学ぶ意義を考えながら学ぶ「教科探究」

学級担任制（一部教科分担任制）

深く

自分（たち）が実現したいことを「探究」

探究を柱とした教育活動

総合

生活科

各教科

各教科

各教科

各教科

グループで
広く、そして深く

広い視点で物事を捉えた上で、グループ毎にテーマを決めて「探究」

Project.F
（仮称）

グループ毎のテーマ

みんなで広く

異なる視点から、現状を広く捉え、現状とよりよい状況とのズレを顕在化する「探究」
※ 小グループ

共通テーマ

みんなで深く

自分たちの思いや願いの実現に向けて「探究」
※ 学び方を学ぶ

共通テーマ

自分で深く

子供一人一人が、自分の思いや願いの実現に向けて「探究」

共通テーマ

公立学校からの選抜
(20名)

後期課程

【252名】

9年
8年
7年

6・3制の中で、4・3・2制の良さを生かしたカリキュラム等を実現

前期課程

【384名】

4年
3年
2年
1年



地域経済・地域社会の持続可能な発展とWell-being社会の実現に貢献するため「社会実装力」を持つ人材を育成



行政政策学類

政経学部

経済経営学類

政経学部が育成する社会実装力とは

01

地域の様々な資源を有効に活用して、地域を活性化するための仕組みやサービスを実装できる力

02

新しく生み出される技術を多様な形で事業に活用し、企業や地域経済を元気にすることができる力

社会実装力

地域資源や新しい技術を活用し、新しい価値を創造できる人材を育成

地域企業の新陳代謝を牽引、地域経済の再構築に貢献できる人材を育成

公的な視点で新しい社会の姿をデザインし、伴走することができる人材

産業・地域社会
イノベーション
コース
(文理融合コース)
100名

経済経営
コース
150名

公共政策
デザイン
コース
150名

社会実装科目群

データアナリティクス科目群

浪江町

防災まちづくり
プロジェクト

会津若松市

おちょこパス
プロジェクト

F-REI(福島国際研究機構)委託研究、福島浜通り地域における復興・再生まちづくり研究、幾世橋防災まち歩きマップ



会津若松市の周遊バスルートの酒蔵と伝統工芸の会津漆器を掛け合わせることで、地域公共交通の活性化を促すべく商品化



プロジェクト例

ディプロマ・ポリシー

- 経済学を中心とする人文社会科学の専門知識の修得
- エビデンスに基づく論理的思考力・課題解決力
- 文理融合によるイノベーション力
- 協働力とマネジメント力
- 社会倫理と公正性

「復興知」を未来に活かす

越境学習・学際的アプローチ

社会実装に関わる様々な分野の基本的な知識を学びながら、他分野の人々と協力するための知見を得るとともに、他の専門領域に触れることで自らの専門領域の活用範囲を広げる。

福島県全体をキャンパスとした社会実装教育

専門科目をベースに、基礎(課題理解と知識の習得)、応用(解決策の設計)、実践の3段階の学びを4年間で積み上げる。連携する企業や自治体等をフィールドとして実践的に展開。卒業時に学内外で発表する。

ディープデータを活用したデータ分析教育

ビッグデータなどの数値データを利用した標準的な分析で一般的な状況を把握しつつ、地域固有の深い情報を丁寧に読み取り、地域に合わせた適切な判断ができる力を養う。

現行入試制度
 【令和8年度入試（令和7年度実施）まで】

学類	選抜方法
人間発達文化学類	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般選抜（前期日程・後期日程） ● 総合型選抜 ● 学校推薦型選抜
行政政策学類	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般選抜（前期日程・後期日程） ● 総合型選抜（夜間主） ● 学校推薦型選抜
経済経営学類	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般選抜（前期日程・後期日程） ● 総合型選抜 ● 学校推薦型選抜（A推薦・B推薦）
共生システム理工学類	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般選抜（前期日程・後期日程） ● 総合型選抜 （一般枠・理系教育女性人材育成枠） ● 学校推薦型選抜
食農学類	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般選抜（前期日程・後期日程） ● 総合型選抜 （地域社会貢献枠・実践教育経験枠）

令和9年度以降の入試制度
 【令和9年度入試（令和8年度実施）以降】

学部	選抜方法
教育学部（仮称）	具体的な選抜方法は検討中 （決まり次第周知します）
政経学部（仮称）	具体的な選抜方法は検討中 （決まり次第周知します）
理工学部（仮称）	学類から学部への変更に伴う 選抜方法の変更はありません。
食農学部（仮称）	※食農学類（食農学部）の選抜方法の変更については、令和7年3月に公表済みです。 https://www.fukushima-u.ac.jp/news/2025/03/013692.html